【機密性2】

令和3年度　自己点検・自己評価　最終評価と今後の課題

適　　切	4	80↑
ほぼ適切	3	70
やや適切	2	60
不 適 切	1	50↓

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
1 教育理念・目的・目標	1）学校の教育理念・目的・目標の設定	(1)教育理念・教育目的は法との整合性がある。	学校の教育理念・目的・目標は、学生便覧、講義概要、実習要項、学校案内に記載しており、、学生には、入学時だけでなく、実習前や全体集合時、HR等でその意図を周知するように努める。また、各教室に教育理念・目標の提示し日々学生の目に触れやすい環境となっている。さらに学生への浸透を目指していく。クラス目標は、学校の教育理念や教育目的・目標に沿って、年度初めの4月に教員会議で検討し、各学年のレベルに合わせた目標設定をする。その目標をふまえ、学生同士で目標を設定し、7月・3月の終講・終業日に評価を発表をする。 国立病院機構の養成機関である独自性や国民の期待やニーズに対応できる人材育成を主眼においていること、看護専門職業人を養成しているということを教職員全員が共通認識し、看護教育だけにとどまらず、日々の学生生活においても常に意識し、指導を行う。 2017年度から社会人基礎力について全学年で自己評価を実施した。今年度も全学年で4月・9月（2年生は7月）・2月を目安に自己評価を行い、結果を踏まえ評価していく。 教育理念・目標については、昨年度新カリキュラムに向けて教育理念・目的・目標の検討を行い、文言を整理した。	学校の教育理念・目的・目標は、学生便覧、講義概要、実習要項、学校案内に記載しており、学生には、入学時だけでなく、実習前や全体集合時、HR等でその意図を周知するように努めている。また、各教室に教育理念・目標を提示し日々学生の目に触れやすい環境となっている。クラス目標は、学校の教育理念や教育目的・目標に沿って、年度初めの4月に教員会議で検討し、各学年のレベルに合わせた目標設定をした。その目標をふまえ、学生同士で目標を設定し、各学期末にクラスで評価を行った。 国立病院機構の養成機関である独自性や地域のニーズに対応できる人材育成を主眼においていること、看護専門職業人を養成しているということを教職員全員が共通認識し、看護教育だけにとどまらず、日々の学校生活においても常に意識し、引き続き指導を行う。 2017年度から実施している、社会人基礎力について全学年で自己評価を実施した。今年度も全学年で4月・9月（2年生は7月）・2月を目安に自己評価を行い、結果を踏まえ評価していく。 4月の自己評価の結果、3学年とも低かった項目は考え抜く力「創造力」であったが、9月と2月の自己評価では3学年ともに上昇傾向にあった。コロナ禍で行事やGW等も減少する中、演習や実習準備等、学生が意識できるように関わった。また、カンファレンスや援助の振り返りを通して意図的に関わったことが上昇した要因と考える。今後も機会教育を行っていく。 教育理念・目的・目標については、社会のニーズや変化に対応しているかという視点で教員会議で見直しを行った。今年度、昨年度新カリキュラムに向けて教育理念・目的・目標の検討を行い、文言を整理した内容を再度見直した。	4
		(2)教育理念・目的を明文化している			4
		(3)教育理念・目的は看護教育についての考え方を示している。(看護学・看護基礎教育の本質）養成所の教育上の特色を明示している			4
		(4)看護専門職（専門性・自律性・倫理性・判断力・実践力）が明示されている			4
		(5)教育観と学生観が明示されている			4
		(6)教育理念・目的は人材育成の内容と一致している			4
		(7)教育理念・目的・目標を学生にとって学習の指針になるように具体的に示している			4
		(8)養成する看護師等が卒業時点において持つべき資質を明示している			4
	2）教育理念・目的・目標の達成	(9)教職員は教育理念・目的・目標について認識し、共有している			4
		(10)教職員は、教育理念・目的・目標の達成に向けて努力している			4
		(11)教育理念・目標は学生に浸透している			4
		(12)卒業時点に於いて期待する姿になっているかを評価している			4
	3）教育理念・目的・目標の点検、見直し	(13)教育理念・目的・目標と教育課程の考え方が一貫している			4
		(14)教育理念・目標は社会変化、ニーズに対応し年一回見直している			4
2 教育課程	1）教育課程の立案	(15)教育課程は看護学の内容・求める学修の到達及び学生の成長発達について明確な考え方と根拠を持って編成されている	平成29年度に平成30年版国家試験出題基準のマトリックスを作成し、教育内容に漏れがないか確認を行い、新出題基準に沿ってシラバスを変更した。講義依頼の際にそれらを活用し、科目担当講師に伝え教育内容に漏れがないようにしていくruまた、変更になった2・3年生に対しては年度初めに新しいシラバスを配布し説明を行う。特に基礎分野の教育内容については科目の位置づけや授業目標を説明し当校で学ぶ目的を理解し、授業に臨めるようにする。 講義担当者は、講師と調整を図り、学生の様子を含めて情報交換を行う。 複数講師に依頼している科目については、履修期間を調整し、単位認定試験の日が重ならないように調整する。欠席等で履修時間が不足し、学生に不利益が生じないよう、特に、15時間の科目については、集中講義にならないよう調整していく。 講義終了時には学生に科目評価のアンケート用紙を配布し、無記名で収集している。全体で集計を行い、講師個人が特定されないような形で公表していく。個別には講師会議や今年度の講義依頼時に結果を伝えた。今後もコメント欄に多く意見を出してもらうよう促し、学生の科目評価を活用していく。 カリキュラム評価については、卒業時と各学年の年度末にも評価を行った。今年度も3学年とも学年末に実施し、学生の意見を反映していく。	平成29年度に平成30年版国家試験出題基準のマトリックスを作成し、教育内容に漏れがないか確認を行い、新出題基準に沿ってシラバスを変更した。講義依頼の際にそれらを活用し、科目担当講師に伝え教育内容に漏れがないようにしている。また、変更になった2・3年生には年度初めに新しいシラバスを配布し説明を行った。科目目標や行動目標について、教員は始講日に各回の講義内容や評価方法とともに学生に提示し、外部講師についても同様に依頼している。 複数講師に依頼している科目については、履修期間を調整し、単位認定試験の日が重ならないように調整している。欠席等で履修時間が不足し、学生に不利益が生じないよう、特に、15時間の科目については、集中講義にならないよう調整している。また、科目留年者についても、可能な限り、履修がスムーズに行えるよう時間割調整を行った。 教育課程の評価については、講義終了時に学生に科目評価のアンケート用紙を配布し、無記名で収集している。全体で集計を行い、講師個人が特定されないような形で公表していく。個別には講師会議や今年度の講義依頼時に結果を伝えた。今後もコメント欄に多く意見を出してもらうよう促し、学生の科目評価を活用していく。結果については、講師会議や来年度の講義依頼時にて伝えていく。 教育課程の編成・見直しについては、2018年に進度変更した人間関係論については1年次2学期となったことで、実習に役立ったとの声が多くあった為、引き続き、状況を確認していく。 今年度も昨年同様コロナ禍により、、対面授業が好ましい科目とWEB授業でも履修が可能な授業を考慮し、履修できるよう調整した。 カリキュラム評価については、卒業時だけでなく、各学年の年度末にも評価を行っている。今年度の卒業時によるカリキュラム評価の全体平均は3.4であり、全ての項目において上昇していた。「分かりやすい授業が多い」は4段階評価で3.1（昨年度3.0）と上昇した。	4
		(16)教育理念・目的・目標にあった科目設定をしている			4
		(17)教育課程・授業・評価に至り一貫性がある			4
		(18)科目設定には学校の特色を盛り込んでいる			4
		(19)科目設定には学習者・社会のニーズを考慮している			4
		(20)科目の一般目標・行動目標は明確に設定している			4
		(21)指定規則に合致した科目と単位・時間を設定している			4
	2）教育課程の効果的編成	(22)教育理念・目標にあった順序性で科目を配列をしている			4
		(23)科目の位置づけと科目間の関連性を明示している			4
	3）教育課程の点検・見直し	(24)教育課程の評価・見直しは定期的（年１回）に行っている			4
		(25)教育課程の見直しは学生・講師・教員の意見を反映している			4
		(26)教育課程を評価する体系が整っている			4
		(27)教育課程評価結果の活用において、倫理的配慮を行っている			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
3 教育活動・教育指導のあり方	1) 学習支援（ガイダンス）	(28)年度初めにカリキュラムガイダンスを行っている	講義概要の内容については、ガイダンスの際に気づいたこと等をメモし、年度末までに見直しを行う。災害時の行動、試験やSNS使用について参照するなど学生が活用できるように適宜、説明している。また、単位履修の方法や科目毎の評価割合については、年度や学期毎に説明している。2019年からは漏れがないように、休学者にも、復学した際に学生便覧などの変更点をマニュアルに沿って説明している。引き続き実施していく。 2018年度より実施した再実習・再試験の受験料の徴収や再実習・再試験の提出方法などについては便覧に明確に記載したことにより、トラブルは起こっていない。以後、学生に不利益が生じないよう、運営していく。 単位履修の方法や制約については、講義開始前、内容や必要なテキストなどを講義概要で確認することや科目の初講の際には必ず持参することを担任が指導している。科目が履修できなくなった場合、今後の進度や制約については、適宜、学生に説明している。 次年度の講義概要の内容については、分担をし担当講師と相談しつつ見直しを行い、講義内容を分かりやすくする為に、1回ごとの教育内容を示した。また、新カリキュラムに向けて検討を行った内容について、引き続き活用しやすいシラバスとなるよう最終確認していく。	講義概要の内容については、ガイダンスの際に気づいたこと等をメモし、年度末までに見直しを行う。災害時の行動、試験やSNS使用について参照するなど学生が活用できるように適宜、説明している。また、単位履修の方法や科目毎の評価割合については、年度や学期毎に説明している。2019年からは漏れがないように、休学者にも、復学した際に学生便覧などの変更点をマニュアルに沿って説明している。 2018年度より実施した再実習・再試験の受験料の徴収や再実習・再試験の提出方法などについては便覧に明確に記載したことにより、トラブルは起こっていない。以後、学生に不利益が生じないよう、運営していく。 単位履修の方法や制約については、講義開始前、内容や必要なテキストなどを講義概要で確認することや、科目の始講の際には必ず持参することを担任が指導している。科目が履修できなくなった場合、今後の進度や制約については、適宜学生に説明している。 次年度の講義概要の内容については、分担をし担当講師と相談しつつ見直しを行い、引き続き、講義内容を分かりやすくする為に、1回ごとの教育内容を示した。また、新カリキュラムに向けて検討を行った内容について、活用しやすいシラバスとなるよう再度確認した。	4
		(29)学生便覧は内容・構成が工夫して作成され、学生が活用している			4
		(30)シラバスが作成され活用について学生に説明している			4
		(31)単位履修の方法とその制約について教師・学生の双方がわかるように明示している			4
		(32)単位履修の方法は学生の単位履修を支援するものとなっている			4
	2) 授業の計画的遂行・調整	(33)授業計画に基づいて授業は実施している	授業計画に基づいて授業を実施し、科目の内容に応じて演習も実施していく。講義の依頼の際には、講義内容に関する国家試験出題基準や関連する科目の教育内容なども説明していく。 昨年度は新型コロナウイルスの影響で休校となり、学習進度も遅れ、授業計画通りに進んでいない状況があったが、WEB授業の導入により最小限の遅れや変更であった。今年度も、引き続きコロナ対策を行い、必要時にはWEB授業を導入する等、柔軟に対応していく。自宅自己学習となることも予測されるため、自己学習方法や課題など、担任より説明し、学生の学習を支援していく。また、学科進度については、学生の不利益が生じないように説明し、運営できるようにしていく。適宜、科目目標に到達できているのか確認し、引き続き支援していく。 演習についても、引き続き感染対策を行いながら、3密にならないようなグループ編成や、演習内容の構成を意識していく。 専任教員の授業はクラス別で実施し、外部講師の場合もいくつかの科目においてクラス別授業を実施していく。医師以外の臨床からの講師に関しては、看護に関わる専門分野について協力を得ながら、今後もクラス別授業となるようにしていく。グループワークや発表などは少人数で行えるため、学生も参加しやすく指導も目が行き届く様子である。今後もクラス別で行うメリットを活かすことができるように講師と共に考えていきたい。 1クラスの学生数は40名を超えていないが、学生にとって効果的な演習となるよう、担当講師だけでなく、事前調整を行い他の教員の協力も得て、複数で指導にあたるようにする。また、学生の技術力が年々低下していることから、看護技術習得に関して学生自身の意識や学び安い環境とするための現状把握として2018年度にアンケート調査を行った。その結果を活かし、放課後の技術支援の体制を整え、継続していく。	授業計画に基づいて授業を実施し、科目の内容に応じて演習も実施している。講義の依頼の際には、講義内容に関する国家試験出題基準や関連する科目の教育内容なども説明している。昨年度行ったカリキュラムに関する満足度調査では、「わかりやすい授業が多い」の評価点が低かった。今年度、コロナ禍の影響で一部WEB授業を導入した。開始や終了時期が若干遅れたり、演習等の内容が前後した科目もあった。また単位認定試験日については、学年で登校日が重ならないよう調整し実施することで、学期内に履修することができた。学生の不利益が生じないよう説明し、科目目標に到達できているのか確認し、引き続き支援していく。また、WEB授業期間中は看護技術についてイメージトレーニングができるよう、資料の工夫を行い配布したり、夏季休業明けからは1年生の解剖生理学の学習をサポートする為、グループ学習を取り入れ、担任が指導を行った。 専任教員の授業はクラス別で実施し、外部講師の場合でもいくつかの科目においてクラス別授業を実施している。医師以外の臨床からの講師に関しては、看護に関わる専門分野について協力を得ながら、今後もクラス別授業となるようにしていく。グループワークや発表などは少人数で行えるため、学生も参加しやすく指導も目が行き届く様子であるため、今後もクラス別で行うメリットを活かすことができるように講師と共に考えていきたい。 1クラスの学生数は40名を超えていないが、学生にとって効果的な演習となるよう、事前調整を行い担当講師だけでなく、他の教員の協力も得て、複数で指導にあたった。また、学生の技術力が年々低下していることから、看護技術習得に関して放課後の技術支援の体制を整えた。遅出教員が技術支援を行うことも定着してきており、科目担当教員と協力をしながら、引き続き支援を行っていく。	4
		(34)時間割の進度は、授業計画通りに行われている			4
		(35)授業形態（講義・演習・実習）は、授業内容に応じて選択している			4
		(36)授業内容は精選され、学生のレディネスにそって構成されている			4
		(37)科目毎の授業内容を整理し、担当者へ周知している			4
		(38)1クラスの学生数は40人以下の構成である			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
3 教育活動・教育指導のあり方	3）授業科目の担当・時間	(39)科目を担当する講師は、その分野を教授するのにふさわしい人が担当している	教員の実習時間3時間に1時間程度の準備時間の確保については、明確にはしていないが、講義、実習、学生指導以外の時間は、教員の判断において準備などに充てていく。また、実習に関与しない期間を設けるなど、時間内に実施できるよう配慮している。しかし、突発的な学生指導もあるため、準備時間として活用できていないこともある。学生対応がない時間に準備時間を設けられるよう、引き続き工夫していく。働き方改革が問われる中、明確に準備時間が確保できるように時間管理を行っていけるようにしていく。 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内となるように時間割を調整していく。 新しい講師の選定は専門性の確認を行ったうえで実施する。 希望すれば研修参加のために休みを取ることが可能であり、研究助成金の利用もしやすい環境である。年度初めに計画を立て、学会や研修会に出張として参加していく。今後も計画的に研修に参加し、研究につなげていけるようにしていく。また、研究日については、個々に業務調整を行い、毎月0.5日は計画的にとれるようにしていく。	教員の実習時間3時間に1時間程度の準備時間の確保については、明確にはしていないが、講義、実習、学生指導以外の時間は、教員の判断において準備などに充てている。また、実習に関与しない期間を設けるなど、時間内に実施できるよう配慮している。しかし、突発的な学生指導もあるため、準備時間として活用できていないこともある。学生対応がない時間に準備時間を設けられるよう、引き続き工夫していく。働き方改革が問われる中、明確に準備時間が確保できるように時間管理を行っていけるようにしていく。 教員一人当たりの週授業時間は15時間以内であった。 新しい講師の選定は専門性の確認を行ったうえで実施した。 希望すれば研修参加のために休みを取ることが可能であり、研究助成金の利用もできるため、年度初めに計画を立て、例年、学会や研修会に出張として参加している。しかし、今年度も昨年度同様コロナ過の為、学会や研修が中止になっている現状がある。WEB参加等、必要な研修等は感染予防に留意し参加していった。 また、研究日については、勤務表に記載し計画的に取得するように努めている。教員の研究日取得率は58.8%(2月現在）である。引き続き業務調整を行い、取得できるように計画していく。	4
		(40)教員が専門性を発揮できるように、教員の担当科目と時間数を配分している			4
		(41)教員一人当たりの週授業時間は１５時間以内である			4
		(42)教員の実習担当時間数は3時間に1時間程度の準備時間が見込まれている			4
		(43)教員が自ら成長出来るよう、自己研鑽のシステムを整えている			4
	4）教育方法の工夫・研究	(44)学生が自主的に考え、学習することが可能な授業形態が導入されている（少人数教育・ゼミなど）	授業時間以外には実習室を開放し、学生が自主的に技術練習が行えるように配慮する。1年生の技術チェック・技術試験前と、2年生の実習前技術練習の時期が重なり、実習室が混雑することが予測される。学年で使用できるベッドを決めているため、調整しながら使用するよう伝える。また練習時間として、自己研修で時間を確保するだけでなく、学生自身で時間を活用するように指導する。 技術試験については、教員にデモンストレーションを行い、統一した評価ができるように検討を行う。2018年度から教員会議でその時間をとり、1回で全教員に示し意見交換を含めて効果的に行えるよう調整したため、引き続き実施していく。 東海北陸グループ授業研究グループでの活動については、昨年度各教員が日程を調整しながらWEB参加した。今年度より新しいグループメンバーと研究内容になるため、引き続き業務調整を行い授業力向上のために積極的に参加していく。 備品については、夏季休業中に点検を行い、適宜修理を依頼している。 日頃から教材研究を行い、授業研究についても昨年度は各教員１題行い、教員会議等で検討の場を設けている。また、ビデオカメラ・ipadを用いて看護技術の動画を撮影するなど、学生が興味関心を持ち、自主的に練習できるような教材作りも行っている。各講師にも様々な教材を紹介して授業に取り入れていただくように講義担当者で意識していく。	授業時間には実習室を開放し、学生が自主的に技術練習が行えるように配慮した。1年生の技術チェック・技術試験前と2年生の実習前技術練習の時期が重なり、実習室が混雑することが予測された為、学年で使用できるベッドを決めているだけでなく、感染予防にも留意し、新たにルールを作り、調整しながら使用した。練習時間として、自己研修で時間を確保するだけでなく、教員が指導を行いつつ、学生自身でも時間を活用するようにしている。 技術試験については、教員会議時に時間を設け、教員にデモンストレーションを行い、統一した評価ができるように検討を行っている。1回で全教員に示し意見交換を含めて効果的に行えるよう調整している。さらに学習支援として、科目担当教員は視聴覚教材を作成し、自由に視聴できるように工夫している。 東海北陸グループ授業研究グループでの活動については、各教員が日程を調整しながら参加した。WEBでの活動であるが他校の教員と意見交換を行うことで刺激となっている。 備品については、夏季休業前に点検を行い、適宜修理を依頼している。また、科目担当教員が学生とともに授業開始前に物品の点検を行っている。 日頃から教材研究を行い、授業研究についても教員会議で検討の場を設けている。また、ビデオカメラ・ipadを用いて看護技術の動画を撮影するなど、学生が興味関心を持ち、自主的に練習できるような教材作りも行っている。各講師にも様々な教材を紹介して授業に取り入れていただくように講義担当者で意識していく。 今年度学校全体のインターネット環境の拡大工事を行った。ICTを活用した授業方法に関しても引き続き情報収集し、授業方法や内容を検討していく。	4
		(45)視聴覚教育機器・教材の質と量は十分で、効果的に活用されている			4
		(46)効果的な教育方法について、検討の場をもっている（学内外）			4
		(47)備品は台帳記載がされ、定期的な点検や購入計画がされている			4
		(48)教育において日常的に教材研究を行っている			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
3 教育活動・教育指導のあり方	5）臨地実習施設	(49)実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保している	新型コロナウイルス感染症の影響が続いており、学生には日常生活からの予防行動の徹底を指導している。実習前の行動履歴を確認し実習施設に報告を行っている。実習前中後にも検温を行い、出席表に記載するなど体調の自己管理を行うことで実習科目の目標・内容に見合った実習施設を確保し受け入れてもらっている。 実習施設は実習指導者会議および日々の実習指導において養成所の教育理念・教育目的・教育目標を共有し理解した上で学生の看護実践を支援する体制を整えている。今年度も学生が感染予防行動を遵守し、実習に臨めるよう指導を継続する。感染拡大状況によっては実習方法や期間の変更もあり得るため、臨床と連携し調整を行いながら指導をすすめる。 現在、新カリキュラムに向けた実習要項の作成が始まっているが、各領域の課題を見直しカリキュラム編成のガイドラインに準じてすすめていく。同時に実習評価について、評価方法や評価基準の見直しも行い、公平性がとれるよう検討を行っていく。また、「学生による実習評価」についても、何故学生が達成できていないと考えたのか分かりやすい表現にするなど見直しを行う。 1年次、2年次の学生に対して、事例演習、技術演習を段階的に学習できるように、学生のレディネスに応じて個別指導を行っていく。領域別実習や統合実習前にKYT、技術演習をグループ学習し臨床での安全な実践につなげる。 昨年度は、臨地での実習期間の短縮により学内での演習等をおこなった。領域よって実習を行うにあたり効果的であった演習内容を取り入れていきたい。	新型コロナウイルス感染症の流行下であり、実習の有無に関わらず学生には日常生活から予防行動が徹底して行えるようにを指導した。実習前の行動履歴を確認し実習施設に報告を行っている。実習前中後にも検温を行い、出席表に記載するなど体調の自己管理を行い、感染予防行動を遵守し、実習に臨めるよう指導を継続した。次年度も日常生活からの感染予防行動を遵守し状況によっては実習方法や期間の変更もあり得るため、臨床と連携し調整を行いながら指導をすすめる。 新カリキュラムの基礎看護学実習Ⅰ実習要項について、ルーブリックの作成を行う中で内容の見直しも行った。次年度からの活用に備えて準備を進めていく。又、新しい技術到達度に基づいた技術経験録の作成も行った。臨地実習で経験を重ね技術到達が図れる様に臨床と調整していく。 実習評価は、学生の自己評価、指導者と教員の自己評価について新様式を作成した。老年臨床看護実習より運用を開始しており、指導者や教員が自分の指導に関して内省することで、学生の成長につながる指導ができるように活用していきたい。 各学年で事例演習・技術演習を段階的に学習できるようにグループ学習をすすめ、学生のレディネスに応じて個別指導を行った。次年度は新カリキュラムとなる為、臨床判断能力の育成などを意識して効果的なシミュレーション教育を取り入れて強化していきたい。今年度は領域別実習において、患者の個人情報を記載したメモ帳を紛失する事故が発生した。そのため、メモ帳を学校や実習場所で管理する方法に変更した。今年度の反省を踏まえて、実習前のKYT演習や実習中のヒヤリ・ハットの共有を引き続き行い、事故防止に努めたい。	4
		(50)実習施設は養成所の教育理念、教育目的、教育目標を理解している			4
		(51)実習施設は学生の看護実践を支援する体制を整えている			4
		(52)実習施設は実習目的を果たすために適切・妥当であるか定期的に見直している			4
		(53)実習指導者は実習要項をもとに、実習指導案を立案・実施・評価している			4
		(54)実習指導者と教員は、役割分担を明確にして指導している			4
	6）授業評価	(55)教員は授業終了時に、評価表による学生からの評価を実施している	全科目において授業評価を行い、個別には10時間以上講義を行った講師を対象に授業評価を行い、授業の改善に役立てる。 授業研究については、昨年度11名の教員全員が行った。今年度は全員が授業研究を行うことと、授業研究参加率が90％以上となることを目指す。また東海北陸グループの看護教員授業研究グループに参加しており、今年度より新しい研究内容に取り組んでいく。	全科目において授業評価を行い、個別には10時間以上講義を行った講師を対象に授業評価を行い、授業の改善に役立てている。 授業研究については、10名の教員全員が行った。授業研究参加率は76.9％であった。講義日の事前調整を行い、今後は参加率を高めていく。教員自身による授業の自己評価表が作成されており、教員会議で授業評価を行い今後の授業に役立てている。	4
		(56)教員間での授業評価が行われている			4
		(57)教員自身による自己評価を実施している			4
		(58)評価結果に基づいて、実際に授業を改善している			4
		(59)評価結果活用システムが明確である			4
	7）単位互換	(60)大学・短大・専修学校への単位互換が可能な科目設定・時間設定である	履修科目の認定について、昨年度はなかったが、今年度は2名の学生が単位互換予定である。学生より申請があった場合は担当講師と申請書類の審査を行い、単位の認定を行う。	単位互換が可能な科目設定・時間設定となっている。 履修科目の認定について、1年生2名の学生より単位互換申請があったため、担当講師と申請書類の審査を行い、単位の認定を行った。次年度の入学生に対しても説明をしていく。	4
		(61)大学（短大）卒の入学生に単位の認定制をとっている			4
	8）成績評価・単位認定	(62)評価の方法は試験・出席・学習状況・レポートにより行われている	各科目の評価方法は講義概要に明記している。さらに初講時に担当講師より評価方法について説明していただくよう、確認・調整を行う。また、単位認定試験等の日程については、学期末には試験が複数行われるため、夏季休業前と冬季休業前に日程を示す。技術チェック・技術試験の評価表については、講義担当者会および教員会議、デモンストレーションの際に検討を行い、共通認識した上で評価にあたる。 単位認定試験前には、学生の出席状況の確認を教育主事と共に行い、受験資格について確認する。 履修認定については、年間計画に基づき学校運営会議を開催していく。	各科目の評価方法は講義概要に明記している。さらに初講時に担当講師より評価方法について説明していただくよう、確認・調整を行っている。また、単位認定試験等の日程については、学期末には試験が複数行われるため、夏季休業前やに日程を示した。技術チェック・技術試験の評価表については、講義担当者会および教員会議、デモンストレーションの際に検討を行い、共通認識した上で評価にあたっている。 単位認定試験前には、学生の出席状況の確認を教育主事と共に行い、受験資格について確認している。 履修認定については、年間計画に基づき学校運営会議を開催していく。	4
		(63)単位認定のための評価基準と方法を公表している			4
		(64)進級・進度の基準を示し適用している			4
		(65)履修認定会議・進級判定会議は定期的に開催している			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
4 組織・管理運営	1）学校の組織と関連組織の整備	(66)教員組織、事務組織は専任者が配置され、運営しやすい組織図ができている	学校事務長及び事務主任が病院との兼務であるが、学校運営に関する予算及び管理運営において連携する。専任の事務職員2名は非常勤職員であるため、業務調整を図りながら連携する。 専任教員は、教員養成課程を修了しているか大学において教育に関する4単位を取得しており、要件は満たしている。また、専任教員以外にも教務助手2名と昨年度より臨床実習教員1名増員され、2名が配置となったため連携し、実習指導を行う。 設置主体である国立病院機構本部より示された将来構想は、会議において適宜職員に周知している。運営に関する指導要領にある講師の資格に基づき、講師の選定を行い、講師からは履歴書を提出してもらい、その専門性等の確認を行う。	学校事務長及び事務主任が病院との兼務であるが、学校運営に関する予算及び管理運営において連携している。専任の事務職員2名は非常勤職員であるため、業務調整を図りながら連携している。 専任教員は、教員養成課程を修了しているか大学において教育に関する4単位を取得しており、要件は満たしている。また、専任教員以外にも教務助手3名と臨床実習教員2名が配置となったため連携し、実習指導を行っている。 設置主体である国立病院機構本部より示された将来構想は、会議において適宜職員に周知している。運営に関する指導要領にある講師の資格に基づき、講師の選定を行い、講師からは履歴書を提出してもらい、その専門性等の確認を行っている。	4
		(67)教員組織は運営に必要な人数と職種が配置されている			4
		(68)教員は、看護教員養成課程を修了している。			4
		(69)教職員の選考、資格審査、任免、昇格等について明確になっている。			4
		(70)事務組織は運営に必要な人数が配置されている			4
		(71)各職員が命令系統に沿ってその役割を果たしている			4
		(72)教員の人事について副学校長・教育主事は意見を具申している			4
		(73)管理者は教員に将来像を構想として示している			4
		(74)講師や実習指導者は明示した資格要件を元に選考している			4
	2）教員人事の適正配置	(75)教員は看護学の専門領域毎に配置できている	教員は専門領域ごとに配置されており、その者が中心となり、教員全体で効果的な教育を実施できるように努める。 実習調整者である教育主事と実習担当が連携して、効果的な実習について検討を行う。また、教員資格を有した教務助手が1名配置され、残りの1名も十分な臨床経験を有している。	教員は専門領域ごとに配置されており、その者が中心となり、教員全体で効果的な教育を実施できるように努めている。 実習調整者である教育主事と実習担当が連携して、効果的な実習について検討を行っている。また、教員資格を有した教務助手が2名配置され、残りの1名も十分な臨床経験を有している。	4
		(76)実習調整者は専任で配置されている			4
		(77)教務助手は十分な臨床経験を有しているか			4
	3）職員の職務分掌	(78)職務分掌は作成している	業務分掌は作成されており、それに沿って、学校職員は各々の役割を果すよう努力していく。 教員は、教育活動以外にも学校内のさまざまな業務を分担しており、全教員で協力し、学校運営を行っていく。	業務分掌は作成されており、それに沿って、学校職員は各々の役割を果すよう努力している。 教員は、教育活動以外にも学校内のさまざまな業務を分担しており、全教員で協力し、学校運営を行っている。	4
		(79)職務分掌に沿って学校職員は各々の役割を果たしている			4
		(80)業務内容は効果的な職務遂行ができるよう適宜見直している			4
	4）会議への参加 運営	(81)構成員として幹部会議に出席し、必要時意見を述べている	副学校長は幹部会議と管理診療会議に、教育主事は管理診療会議に出席し、必要時意見を述べていく。また、防災訓練の準備委員会や患者サービス小委員会、看護師確保対策プロジェクト会議等にも出席し、必要時意見を述べていく。 学校運営会議は年間計画に基づき開催する。 教員会議は原則週1回開催し、必要に応じて臨時会議を設ける。幹部会議や管理診療会議では学校の管理運営状況を伝えるなど、母体病院と一体となって教育に関わっていることを認識しつつ、良好な関係性を保つよう努める。 講師会議は3月に開催予定であったが新型コロナウイルスの影響で中止となった。そのため講師に1年間の教育実施状況、評価の報告、次年度の計画などの資料は郵送済みであるが年度始めに意見を伺っていく。	副学校長は幹部会議と管理診療会議に、教育主事は管理診療会議に出席し、必要時意見を述べている。また、教育委員会、防災訓練の準備委員会や患者サービス小委員会、看護師確保対策プロジェクト会議等にも出席し、必要時意見を述べている。 学校運営会議は年間計画に基づき開催している。 教員会議は原則週1回開催し、必要に応じて臨時会議を設けている。幹部会議や管理診療会議では学校の管理運営状況を伝えるなど、母体病院と一体となって教育に関わっていることを認識しつつ、良好な関係性を保つよう努めている。 例年、講師会議は3月に開催されているが、昨年度に引き続き、は新型コロナウイルスの影響で中止となった為、資料は郵送し、メール等で意見を伺えるよう調整していく。	4
		(82)構成員として管理会議に出席し、必要時意見を述べている			4
		(83)学校運営会議は定期的に開催し機能している			4
		(84)教員会議は月２回以上定期的に開催している			4
		(85)講師会議は定期的に開催している			3
	5）学籍の管理	(86)学籍簿は学籍の記録、履修状況が正確に記載され、証明機能を備えている	学籍管理システムに成績等の入力を行う。証明書等は必要に応じて発行する。学籍管理のパソコンはインターネットには接続していない。また、遠隔操作用LANも必要時以外は接続していない。学生の成績等に関するデータ処理などはパスワードを入力しないと開けれないようにして秘密を守る。	学籍管理システムに成績等の入力を行っている。証明書等は必要に応じて発行している。学籍管理のパソコンはインターネットには接続していない。また、遠隔操作用LANも必要時以外は接続していない。学生の成績等に関するデータ処理などはパスワードを入力しないと開けれないようにして秘密を守っている。	4
		(87)学籍簿は保管が適切になされ、秘密が守られている			4
	6）事業計画	(88)学校の事業計画を立てている	年度始めに事業計画を立案し学校運営会議で承認を得ている。病院の目標に基づき、学校としての部門目標、計画を立案する。 中・長期目標の予算計画に基づき、予算計画を立案する。	年度始めに事業計画を立案し学校運営会議で承認を得ている。病院の目標に基づき、学校としての部門目標、計画を立案している。 中・長期目標の予算計画に基づき、予算計画を立案している。	4
		(89)事業計画は病院の全体計画の中に適切に位置づけられている			4
		(90)中・長期目標の予算計画が立てられている			4
	7）予算の執行	(91)年間の予算計画・執行状況を把握し、必要時修正している	事業計画に基づき、計画的に備品等の増備に努める。学校の歳入・歳出の状況については、5月の学校運営会議において前年度の決算及び今年度の予算案が報告される。	事業計画に基づき、計画的に備品等の増備に努めている。学校の歳入・歳出の状況については、5月の学校運営会議において前年度の決算及び今年度の予算案が報告された。	4
		(92)職員は歳入歳出の状況を把握している			4
	8）経営意識	(93)職員全員が経営意識をもっている	母体病院の経営状況については、管理診療会議後、資料に基づいて説明、回覧によって周知徹底していく。 学校経営における経費削減については、教材の購入は定期請求時に必要な数を検討した上で請求する、冷房温度の設定を28℃にする、無駄な印刷はしない等、歳出削減に努力する。学生自治会を通して学生にも節電を呼びかけ、よりいっそう経費削減を図っていくが、指導方法の検討が必要である。 在学生は4月19日現在で231名であり96.3%である。受験者数・学生数を確保し収入を安定させるために学生の募集活動を積極的に行う。	母体病院の経営状況については、管理診療会議後、資料に基づいて説明、回覧によって周知徹底している。 学校経営における経費削減については、教材の購入は定期請求時に必要な数を検討した上で請求している、冷房温度の設定を28℃にする、無駄な印刷はしない等、歳出削減に努力している。学生自治会を通して学生にも節電を呼びかけている。学生自治会による掲示物や放課後の見回りを行っている。在学生は3月1日現在、226名であり定員の94.2%である。受験者数・学生数を確保し収入を安定させるために引き続き、学生の募集活動を積極的に行う。	4
		(94)在学生は定員の９０％以上を充たしている			4
		(95)職員は歳出削減に向けて努力している			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
5 学生生活への支援	1）健康管理	(96)定期的に健康診断を実施している	年2回の健康診断を計画通りに実施する。結果においては、健康管理医と連携を図りながら、各学年の担当教員を通して学生の健康管理に努めていく。 1年生は、ワクチン接種や抗体価検査があるため計画的に実施していく。2、3年生においても、臨地実習時期に合わせてワクチン接種を実施する必要がある。学生が新型コロナワクチン優先接種の対象のため、計画的に実施していく。各学年必要な感染防止対策を安全に実施できるよう、助言・指導を行っていく。 臨地実習中に体調不良を生じた場合、また、感染症に罹患している家族と同居している場合、学生が速やかに報告できるように機会教育を行い、学生自身が感染予防行動を意識できるよう指導していく。実習出欠簿に体調管理に関する項目を追加し、運用していく。 引き続き検温表の記入を実施し、学生の体調管理を行っている。また、校内の拭き取りやソーシャルディスタンスの確保など環境を整えたり学生に呼びかけを行っている。特に食事のリスクが高いため、食堂や教室の使い方について検討し、今後お互いに注意しあえるように助言をしていく。また、各教室3台ずつサーキュレーターを購入し、換気が行えるよう調整した。状況に合わせ、引き続き感染予防行動がとれるよう指導・助言を行っていくとともに、日々の感染者数を掲示するなど、学生自身でも啓発活動ができるよう助言していく。 時期ごとの感染予防啓発については、各学年保健委員を中心に取りくめるよう指導していく。（ポスターの提示、手指消毒、マスク着用の徹底など）看護学生として学生が自己の健康管理を意識できるように指導を行っていく。1年生は看護学生として初年度であるため、自己で健康管理を自覚して行っていけるよう強化していく。 健康記録は、個人情報の取り扱いに準じて学年ごとに管理していく。 学生の健康状態や受診の必要性、結果報告について、学生が健康状態を適確に述べられるように機会教育を行っていく。学生の健康状態は教員間で情報共有していく。心理的なことについても情報共有し、学生に助言していく。 健康の記録については、学生が3年間管理できるように入学時から、管理方法について指導しているが、管理できていない学生も多い。抗体価カードを作成したため、個人の予防接種歴や抗体価などを一覧で管理できるよう働きかけていく。	年2回全学生に健康診断を実施し、健康管理医への報告や健康相談も行い、適宜受診を勧めた。受診結果についても学生から報告を受け、健康管理医に報告し、連携をとっている。また、健康上の問題を抱える学生に関しては、プライバシーに配慮しながら、教員間で情報共有し、定期的に体調を確認している。 2学期は、全学生にインフルエンザワクチンの接種を行った。2月19日現在、インフルエンザの発症者は0名であった 。新型コロナウイルスは全国的に感染拡大しているが、当校では濃厚接触者に特定された学生が5名いたが、発症者は1名であった。新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、校内での終日マスク着用、毎日検温し、学生の体調管理を行っている。また、校内の環境整備については、学生らで声をかけ合い、使用場所の拭き取りやソーシャルディスタンスの確保、各教室で2～3台のサーキュレーターを稼働し、換気が行っている。食事場面などで校内放送をかけ、食事前の手指消毒が徹底できるよう取り組んでいる。また飛沫防止のためパーテーションを食堂に設置している。学内、実習場所を問わず個人用の手指消毒剤の持ち歩きを推奨していく。 学生の学校外の行動に関しても、新しい生活様式に合わせた行動がとれるよう、適宜学生全体へ生活指導を行っている。状況に合わせ、引き続き感染予防行動がとれるよう指導・助言を行っていくとともに、学生自身でも啓発活動ができるよう助言していく。 学生の体調に合わせて健康管理医と相談し、全3回のB型肝炎ワクチンの接種を終了している。次年度春季健康診断で抗体の有無を確認予定であり、引き続き支援に努めていく。 健康の記録について、各学年の健康担当より学生自身で健康管理を行えるように、各自で健康ファイルを作成し、管理するよう指導を行った。抗体価カードに個人の予防接種歴や抗体価が記載されているか確認した。今後、自己管理できるよう働きかけている。 臨地実習前にはオリエンテーションで、健康管理について説明し、体調に異常があれば担当教員に相談・報告するように指導している。	4
		(97)学生が日常生活の健康管理ができるように指導している			4
		(98)臨地実習での感染防止の対策をとっている			4
		(99)健康記録は的確に記載し、活用している			4
5 学生生活への支援	2）学生相談室、進路相談室の設置と対応	(100)学生相談の窓口を設けていることを学生に周知している	日々の学習相談やその他の悩みについては各学年担任が対応しているが、心理的な悩みについては、学生相談室でのカウンセリング等を勧めている。学生相談室は、月2回病院の臨床心理士をカウンセラーとして開催している。翌月分の日程が決定したら案内を作成している。カウンセラー自身が、「学校だより」を作成し、相談室を活用しやすいように働きかけてくれている。そこには予約先のPHS番号を記載しているため、学生はダイレクトにカウンセラーとコンタクトを取ることができる。情報提供の内容についてはプライバシー保護に努めた上で、カウンセラーとの連携を取りながら学生に合わせて対応できるよう調整していく。	日々の学習相談やその他の悩みについては各学年担任が対応しているが、心理的なことについては、学生相談室でのカウンセリング等を勧めている。 学生相談室は、月2回病院の臨床心理士をカウンセラーとして定期的に開催されている。翌月分の日程はカウンセラー自身が「学校だより」を作成し、相談室を活用しやすいように働きかけている。1学期には10名の利用があった。2学期には5名の利用があった。相談内容は健康・性格、人間関係（家族）であった。昨年度より利用人数は増加している。学生が気軽に利用できるように、カウンセラーとダイレクトにコンタクトを取り、プライバシーが保持されるようにしている。	4
		(101)学生相談の内容によって窓口（担当）を決めている			4
		(102)プライバシーが保持されるシステムができている			4
		(103)学生相談の専任のカウンセラーをおいている			4
	3）課外活動・ボランティアの支援体制	(104)課外活動に対する、教職員の支援・指導を受けることができる体制である	各部活動、サークル活動に対して教員が各顧問として支援している。引き続き学生が安全かつ積極的に活動できるよう、2回/年、担当顧問が活動計画と活動内容を確認していく。園芸部は引き続き活動を予定しているが、手話部、茶道部、テニス部については新型コロナウィルス感染予防のため活動を中止している。今後、状況をみながら,活動再開できる部活については、再開していく。今年度も学校祭や部活動など集団活動が制限される機会が多くなることが予測される。課外活動に対する参加意欲が減退しないような働きかけを行う。活動の様子を学校のホームページにアップをして、地域や受験対象者の高校生へのアピールにもつなげていく。 校内美化活動など課外活動にも教員が積極的に参加し、課外活動の意義について学生に伝えていく。	コロナ禍の影響で、茶道部・テニス部・手話部の活動は行っていない。園芸部は、病院玄関のプランターも含め、毎日草花への水やりや植え替え等活動を行い、草花を手入れすることができた。実績のないクラブの存続を確認し、整理するように助言した。敷地内の草取りや実習準備室の整理整頓を教員も参加し行い、校内美化活動を計画的に行うことができた。	4
		(105)ボランティア活動の支援体制ができている（情報提供、渉外、経費等）	今年度は集団行動の自粛により、活動できる機会が少ないと考えられる。学生が参加しやすいよう、保健所の担当者に年間計画を確認する等、早めの調整をし支援していく。その他のボランティア活動について情報収集を行い、感染予防しながら学生が参加しやすいよう支援していく。	ボランティア活動について、ヤングミドナサポーターの応募が全学年で22名あったが、コロナ禍で関連行事が中止されたため、活動できなかった。	4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
5 学生生活への支援	4）自治会への支援	(106)学生自治会室（含兼用）がある	昨年度、学生自治会室と自治会専用の倉庫が準備され、自治会執行部が管理し使用している。学生自治会の栞に基づき、学生自身で学生自治会室の管理が適切に行えるよう支援していく。	1・2年生を中心に校内美化活動で、整理整頓を行った。忘れ物の一部保管場所であるため部屋が整理できていない状況であったが、毎週学生に忘れ物を展示し処分させるように指導したことで、使用しやすい状態に管理することができてきた。	4
		(107)学生の自治活動が円滑にいくために助言・指導している	自治会担当教員だけなく、担当業務教員からも自治会の各委員会への助言・指導を行っている。昨年度は、休校による学生の自治会活動の日程変更を余儀なくされ、サマーコンサートやウインターコンサートも中止になった。今年度も新型コロナウィルス感染状況をみながら、Webなどを活用し、形式を検討しながらすすめていく。学生が主体的に創造性をもって取り組み、安全に自治会活動が実施できるよう指導していく。 校内に設置している意見箱への投書内容は定例議会で検討し、解決策を考えている。引き続き、学生の考えを引き出し、学生自身で解決できるよう助言・指導を行っていく。 昨年度は防火防犯委員を中心に、節電に取り組み、学生全員の意識づけはできたが、行動変容には至っていない。交通マナーについても近隣住民から指摘をいただくことも多い。そのため、節電に加え交通マナーについても定例議会で問題提起し、学生全員が意識改革・行動変容ができるよう、引き続き対策への助言を行っていく。	サマーコンサート・ウインターコンサートはコロナの影響で中止となった。そのため、感染予防に配慮しながら病院外来と学校で七夕の笹飾りを行うように指導した。また、クリスマスの時期には病院外来にクリスマスツリーやメッセージカード、クリスマスの装飾を行った。学校祭は3密を避けた状態で学校内でのweb配信をし、学年での学びを共有した。次年度も感染状況に応じて、開催方法を検討する。現在、年間を通して季節感を感じてもらえるような動画を学生が作成中であり、今後ホームページで公開予定である。 コロナ禍であり、感染対策について学生自らが考え行動できるように指導をした。各委員会への助言は、自治会担当教員だけでなく、委員会の担当教員と協力して行った。節電については引き続き防火防犯委員を中心に、節電へ呼びかけだけでなく、注意喚起のためのポスターを作成し、更衣室に貼るなどの助言を行い、実施した。校内の戸締りについては、学生自らが原因に基づいた対策を考えるように指導しているが、不十分な時もあり、引き続き指導が必要である。また、今年度問題となっている交通マナーについても、防火防犯委員が中心となり、全体への呼びかけを行うなど、各個人が看護学生として節度ある行動がとれるような働きかけを定例議会などで助言した。	4
		(108)他校と交流の機会をもっている	例年、NHO学生フォーラム（グループ主催）に参加しており、グループ内の看護学生との交流・情報交換を行っており、昨年度は新型コロナウィルスの流行によりWebでの開催になった。今年度もWebでの開催になる可能性が高く、交流の機会がない。社会情勢をみながら、参加・交流ができる機会ができれば、積極的に参加していく。	コロナ禍のため、NHO学生フォーラムから「東海北陸グループ2年生ビデオで交流会」に変更となった。2年生の担任の指導のもと、ビデオ作製を行+った。主体的に参加し、他校との学生と交流を持つことができた。	4
	5）福利厚生（奨学金制度・学生宿舎・学生後援会等）	(109)奨学金制度について学生に周知している	奨学金制度については、入学後のオリエンテーション時に1年生全員に説明を行っており、2・3年生には学期の開始時に希望の確認を行っている。希望者に対しては適切に手続を行い、事務職員による継続の手続の指導も行っている。授業料の免除については学生便覧に明記し、入学時に周知している。新型コロナウイルス対応に関連して授業料減免や追加の奨学金制度などは学生に適宜説明を行い支援を行っていく。 傷害保険には全学生が加入できるよう、各学年の担当教員が学生への情報提供や手続きを行っている。今年度も、学生のケガや物品破損等の必要時には速やかに対応していきたい。 進路支援については、昨年度3年生75人中19人が自施設へ就職している。年々、就職試験が早まっており、3年生からの就職支援ではなく、2年生にも面接を通し、学生に合わせて進路を見据えた関わりを行っていく必要がある。今年度はオープンキャンパスにて施設見学を予定しているが、人数等調整し感染対策を徹底して実施する。また、個々に応じて相談や面談し、情報提供を行っていく。病院主催の交流会が開催される場合は、臨床とも協力して進路相談、支援を行っていく。 同窓会との連携は、行事への出席や、後援団体としての学校への図書の寄贈も毎年続けられており、引き続き同窓会との連携を深めていく。 学生宿舎については、副学校長が管理責任者となり、担当教育主事、各学年に1名ずつ担当教員を配置し、施設設備の点検・改善を行っている。年2回の総会を実施し、学生が自主的に活動できるよう支援している。今年度も1～2か月に1回の執行部ミーティングを実施し、教員も参加することで、学生の日常生活の充実や宿舎生活における現状の把握、諸問題の解決に向け自主的に活動できるよう支援していく。 新型コロナウィルス対応のため、寮内の消毒やふき取りやソーシャルディスタンスの確保など環境を整えたり、学生に呼び掛けたりしている。状況に合わせ、感染予防行動が行えるよう指導・助言を行っていく。 管理人と連携をとって学生の情報共有を行っていくと共に、学生からの要望も聴き、安全な生活が送れるようにしていく。	奨学金制度について、日本学生支援機構の奨学金に関しては、就学直後と10月の臨時募集でオリエンテーションを行い、事務職員による継続の手続の指導や、臨時採用への呼びかけを行った。また、新型コロナウイルスの影響を受けた学生への経済的支援である学生支援緊急給付金を5名が申請した。他に緊急無利子対応奨学金は1名が対象となり、手続きを行った。また高等教育の就学支援制度は23名の学生が利用し、授業料の減免申請を行った。 授業料の免除については学生便覧に明記し説明しているが、今年度、学生からの申し出はなかった。今後も災害等の状況に合わせて対応していく。既履修科目の認定は、今年度2名の申請があった。今後も申請があった際は速やかに担当講師に連絡し、科目認定の手続きを行っていく。 賠償保険には全員が加入しており、今年度、外傷で2名、紛失で1名の申請があり速やかに対応した。次年度に向けて更新手続きの支援を行っていく。 今年度も新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、病院主催の職員交流会は中止となり、3年生に対しては4月から副学校長、教育主事、学年担当で就職や進学に対する面接を行い進路支援を行った。各施設の見学やインターンシップも中止となる施設が多かったが、オンライン配信を実施してる施設や企業もあり、2年生の4名程度が参加した。また、東海北陸グループ看護職員就職説明会の参加支援は引き続き行っている。 同窓会との連携は引き続き行われており、行事への出席や、後援団体としての学校への図書の寄贈も毎年続けられ、今年度も一般図書やDVDの寄贈を受けた。 学生宿舎については、副学校長が管理責任者となり、担当教育主事、各学年に1名ずつ担当教員を配置している。施設設備の点検は学生が中心に点検を行い、学生が主体的に活動できるよう支援を行った。学生の日常生活の充実に向けて月に1回執行部ミーティングを行い、宿舎生活における現状の把握と諸問題の解決に向け助言することで自治会による自主的な運営を支援している。今年度は新型コロナウィルスの流行に伴い、感染予防行動について執行部ミーティングを活用し、呼び掛けながら、施設内の消毒や手洗い・マスクの着用を周知徹底した。	4
		・授業料減免制度　・奨学金　・カウンセリング　・既履修科目の認定			4
		・傷害保険　・同窓会との連携			4
		・卒業、就職等の進路に関する相談、支援			4
		(111)学則の中で授業料減免制度について学生に説明している			4
		(112)学生宿舎を有し、管理責任者を置いている			4
		(113)学生宿舎の運営は、学生が自主的に行っている			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
6 施設整備	1）校舎の整備と管理	(114)学生数に応じた施設基準を満たす設備がある （教室、看護学別の実習室、図書室、情報処理室、保健室、学生相談室、男女更衣室等）	指導要領に規定されている施設設備は、全て有しており、利用方法などは、施設管理規定や図書管理規定に明示されている。コロナ禍であるために、クラブ活動は休止しており体育館は使用していないが、定期的に点検している。看護実習室、視聴覚教室、図書室などにおいても、授業開始前や放課後、開放しており、有効的に利用されているため、今後も継続して利用できるようにしていく。今後、建物などの老朽化により修理が必要となる可能性が高いため、学校内や学校外などの状況を確認するためのチェック表を作成し、長期休暇毎に教員が点検し、修繕が必要な箇所があれば速やかに対処していく。また、災害時に危険となりうる箇所においては再度点検を行い、必要時事務と修理等の調整を行っていく。 防災訓練は年1回行い、学生に避難訓練や学生の役割を確認している。昨年度は緊急地震速報の訓練を1度実施したが、学年により対処行動の実施にばらつきがあった。学校内での災害発生時は机の下に隠れるなど安全行動の確認を行い、地震に備えて3日分の食料・水などを備蓄することについて指導するとともに。今年度も引き続き、学生の防災意識の確認のために調査を行い、防災に対しての知識や意識など確認していく。	指導要領に規定されている施設設備は全て有しており、利用方法は施設管理規定や図書管理規定に明示されている。各教室では、感染予防対策を行いながら、学生が効果的に学習できるように支援している。ネット環境の配信量を増やす工事も継続中である。Web授業が円滑に行われるように支援している。今年度コロナ感染症の影響により、体育館を使用した活動は中止している。また、ラウンジや食堂は整備されており、感染予防対策を行いながら学生は活用している。 建物の老朽化や防災対策のため、学校校舎安全点検表に沿って3回/年（9月、12月、2月）に、教員が施設・設備の破損がないか校内点検を実施した。また、不具合があった箇所については、適宜修理を依頼している。学生の学習環境に影響をきたすため、年間の点検計画を立案し、雨漏りなど修繕が必要な箇所については早期に対応していく。長期休業中に清掃業者にて学校内の清掃を実施している。同時に各教室、廊下の窓の点検も行っている。 災害時マニュアルについては、学生便覧に示されており、入学時と実習前オリエンテーションにおいて説明し周知している。4月に全学年対象に防災訓練を実施し、緊急地震速報訓練を実施した。安否確認システムを使用し、入力を実施した。。次年度の訓練の実施方法や時期についても検討していく。	4
		(115)グループ討議等ができる演習室を有している			4
		(116)教室は視聴覚教材が使えるように整備されている			4
		(117)校内施設利用規定は作成している（含む体育館）			4
		(118)校内の施設利用は、学生の効果的な学習ができるよう配慮している			4
		(119)学生ホールは整備され、憩いの場作りができている			4
		(120)災害時を想定した設備点検・マニュアル作成がされている			4
	2）図書室の整備と管理	(121)図書および資料は分野毎、領域毎に分類され整理されている	R3年4月15日現在、一般図書3926冊、看護医学書10824冊、視聴覚教材1212本となっている。新規図書の購入については、1学期・2学期2回に分けて100万円分購入予定である。学生からの希望も取り入れ、専門領域の教員が検討して購入している。利用頻度や劣化状態も確認し、全体に偏りがないよう精選し増冊していくことで学習環境を整えていく。「病気が見える」シリーズは、現在　冊在庫があるが、実習前の使用頻度と劣化状況を考えると購入が望ましい。学術雑誌は現在34種類であるが、利用状況等から検討し次年度の雑誌を購入していく。 図書室に整備した学生用のPCや文献検索システムは2台あり活用されている。実習前や「看護論」の講義など、効果的に図書を活用できるよう学生に検索方法を伝えている。医学中央雑誌Web版の利用率は向上してきているが、検索している学生は少ない状況である。文献検索状況においては、システムの利用を把握できていない学生がいるため、図書委員を中心に利用の呼びかけを行っていく。実習のテーマカンファレンスやまとめの会等でも利用できるよう、今後も積極的な使用を促し、学生に利用方法の説明など支援していく。 図書委員を中心に年1回棚卸し、日頃の図書整理を行っている。図書室の利用率は高く、学習の場としての環境は常に整えることが出来た。しかし、一部の学生において、貸出の遵守事項が守れず、カードを抜かずそのまま利用する行動がみられている。図書委員が学生への使用方法の呼びかけなど改善策を定期的に行い、利用状況に合わせて効果的に実施できるよう支援していく。 現在、図書司書は配置していないが、事務職員を中心に新刊の展示やおすすめなどを提示している。教員も、実習前や国家試験に関連する本を紹介しているが、より学生が興味・関心を持ち使用しやすい図書室となるように取り組んでいく必要がある。学年ごとに学習状況に合わせて紹介できるよう引き続き実施していく。（7月、12月、2月）また、今後も学生が図書室を活用できるよう、長期休暇中に借りることの出来る冊数を5冊に増やし、開校時間に合わせた開館等適宜支援していく。 前年度から、新型コロナウイルス流行に伴い、出入口にアルコール手指消毒剤の設置、ウェットティッシュでの拭き掃除、書籍前で密を避ける、図書室内の椅子を減らす、手洗いの徹底して、感染予防に取り組む必要がある。学生にとっての学習環境を整え、安全確保と感染拡大を防ぐことができるよう感染防止対策を実施していく。	9月、新規で図書44冊・DVD14本購入した。2学期は、学生・教員の希望を取り入れながら年間合計100万円分になるように購入予定である。また、同窓会（しらゆり会）から本棚とDVDの寄贈を受けた。令和4年2月現在、一般図書3943冊、看護医学書10580冊、視聴覚教材1242本となっている。雑誌は、今年度34種類購入している。引き続き活用できるよう、利用頻度や状況を確認し、文献の精選を行って学習環境を整えていく。古本については、今後も選択しながら、破棄予定である。 学生用のPCや文献検索システムは、「看護論」の講義において活用されている。また、実習のテーマカンファレンス等でも活用できるように伝えてはいるが、放課後など検索している学生は少ない状況である。検索方法が上手くいかず活用できていない学生には、その都度説明を実施している。利用頻度が低い学生も多いため、入学時だけでなく、実習前など学生に合わせて利用方法の説明等を行い支援していく。 図書委員を中心に返却の促しや図書の整理、視聴覚機器の整備・点検を行っている。また、図書当番が開校時間に合わせて開館をしている。しかし、コロナウィルスの影響により遠隔授業になった場合、図書館の開閉、管理、換気は、担当教員と事務助手(図書担当）で管理していく。学生の利用頻度は高く、学習の場として環境は整えることが出来たと考える。実習前や国家試験に関連するおすすめ本を学生に分かりやすいよう配置を工夫して提示し紹介した。学内実習でも活用できるよう促した。引き続き、より学生が興味・関心を持てるよう掲示や紹介方法の工夫をしていく。また、棚卸しを計画的に実施し、長期休業中に図書を借りることが出来るよう支援している。今後も学生が図書室を活用できるように支援していく。 新型コロナウイルス流行に伴い、書棚前での密を避ける、手洗いの徹底などポスターや掲示を行い感染予防に取り組んだ。換気は実施していたが、できていないこともあったため換気中であることを示すなど方法を工夫していく。また、図書室内での椅子の配置を一個ずつ開け、密とならないように対策を行った。学生が図書室内で密になる状況は避けられてはいるが、実習前日など調べることが多い時は、コピー室では密になっていたり、手洗いの実施も不足していることが多い。図書委員を中心に呼びかけ,手指消毒薬利用状況を確認し残量測定することや、密になることがあれば人数制限を行うなど使用状況を確認しながら計画的に関わっていく。現時点で密になりやすい実習初日やカンファレンスの際には特に注意を促していく。そして、学生にとって図書室が良い学習の場となり、実習や国家試験に向けて安全確保と感染拡大を防ぐことができるよう整えていく。	4
		(122)蔵書数は学生数に見合った十分な冊数である			4
		(123)専門分野は専門領域毎に計画的に増補している			4
		(124)学術雑誌は指定基準以上の種類を有している			4
		(125)視聴覚機器が整備されている			4
		(126)図書と学術雑誌およびビデオ等の整備点検はできている			4
		(127)司書を配置している			2
		(128)学生が利用しやすい時間帯に開館している			4
		(129)新刊図書の紹介をしている			4
		(130)必要な図書増備の予算計画ができている			4
		(131)文献検索のためのインターネットの設備がある			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
6 施設整備	3）教材の整備と管理	(132)教材教具は定期的に点検を行っている	学生が教材の点検を毎月実施しているため、今年度も使用方法を説明し、係りの役割を認識できるように支援していく。教材・教具は老朽化により破損・故障しているものが増えている。そのため、講師や教員に確認しながら、優先度を考え臨床に即した物品などに買い替えを計画的に実施していく。また教材の購入時には、機能性とともに経済性も考え、経営面を意識して購入していく。物品の破損については、すみやかに破損状況を確認し、修理をしていく。使用頻度の高い機器、備品と使用頻度の低い機器、備品を考慮し、必要に応じて有効に使用するため、適宜交換を行う。 ビデオやDVDなどの視聴覚教材は毎年新しいものを購入しているが、書籍に比べ視聴覚教材の自己学習での活用が少ない。講義や演習の振り返りの中で、視聴覚教材を活用するよう学生に促していく。また、講師や教員にipadの利用を提案し、講義や演習後に学生がいつでも技術の振り返り等を行えるようにしていく。	学生が自主的に学習できるように、計画的に担当の委員の学生が、備品点検、物品の破損状況の確認を行っている。物品や教材の不明な点は教員が一緒に確認後、指導し、学生が点検できない箇所は長期休業時に教員が点検確認を行っている。また、体育館等の物品に関しても担当委員の学生を中心に、校内美化の時間等を活用して行っている。視聴覚教材については、担当の委員の学生が月1回以上点検を行い、物品の破損は速やかに修理でき、過不足についても適宜確認することができた。 学習に必要な消耗品は、講義内容に合わせて、経済性も考慮した上で講義前に計画的に購入している。各教員が請求日を意識して物品請求することができた。そのため、物品の臨時請求回数は減少した。教材・教具は老朽化により破損や故障しているものが増えている。学生の学習効果を考え、修理や買い替えを検討していく必要がある。 講義や演習などで自己学習にも活用できる視聴覚教材を学生に紹介しているが、DVDなどは書籍に比べ自己学習での活用は少なかった。個々の教員が作成したDVDの活用は多くみられたため、学生のニーズに合わせた内容の視聴覚教材の購入を引き続き行う。ipadなどのIT機器については、現在１５台保有している。看護技術を教授する際にipadを利用する教員が増えたり、演習の振り返りの際に使用することも多い。ICT教育の充実のため、情報処理室のパソコンを3月に更新する予定である。	4
		(133)専門領域毎に教育内容にあった教材を計画的に増備している			4
		(134)器械器具、標本、模型は学生数に見合って十分な数を整備している			4
		(135)ビデオ等、視聴覚教材は自己学習に使用できる			4
		(136)教材購入の経費は年次毎に計画し増備している			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
7 学生の受け入れ	1）学生募集の方法	(137)学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を定めている	学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を立て実施する。 入学試験の方法や入学定員は、募集要項に明示している。 平成30年度から推薦入試（公募制）を導入し、指定校推薦と一般入試の3種類の方法で入学試験を実施している。推薦入試によって、昨年度定員の約40%の確保につながった。今年度も定員の40%程度の確保を行う。今年度も指定校の募集人数について検討していく。社会人入試については、毎年検討を行っている。一般入学試験では応募者の内、およそ3%が既卒者であった。応募者の新卒と既卒の割合は昨年度と大きく変わらないが、今後、更に高校生人口が減少し、応募者が減少していくと予測されるため、選抜方法の検討を引き続き行っていく。	学校の教育理念・目標を反映した学生募集方針を立て実施している。 入学試験の方法や入学定員は、募集要項に明示している。 推薦入試（指定校制・公募制）、一般入試で入学試験を実施した。推薦入試によって、今年度も定員の約40%の確保につながった。一般入試ではA・B日程合わせて、112名（A日程：74名、B日程：38名）と昨年度より受験者数は増加した。そのうち既卒者は7名であった。また、県外からの受験者は7名と昨年度と変わらなかった。 今後、更に高校生人口が減少し、応募者が減少していくと予測されるため、引き続き一般入試を2回、A日程とB日程で実施し、受験者数の増加を目指していく。引き続き、選抜方法の検討を行っていく。	4
		(138)入学定員を明示している			4
		(139)推薦・社会人・一般入試制度の有無は明記している			4
		(140)学生の状況を察知した多様な選抜方法を検討している			4
	2）入学者選抜方法	(141)合格基準は明確にしている	入学試験規程や要綱に合格基準等は明記している。転入学の方法についても学則に記載しており、転入学の応募者があればその都度検討を行っていく。	入学試験規程や要綱に合格基準等は明記している。転入学の方法についても学則に記載している。	4
		(142)転入学の方法・基準を明文化している			4
	3）学生定員の質的充足状況	(143)入学試験の応募状況は選抜するに十分な応募である	昨年度は新型コロナウイルスの影響により、会場形式説明会や高校内ガイダンス、出前授業の参加は例年より少ない状況であった。昨年度の推薦入試での入学予定者は定員の40%程度と変わらなかったが、一般入学試験の応募状況は1.9倍と減少した。今後、更に高校生人口が減少し、応募者が減少していくと予測され、今年度から入学試験をA・B日程で開催予定である。今後も選抜方法の検討を行っていく。 今年度はコロナ禍であるが、入学試験応募人数を確保に向け、可能な限り会場形式説明会や高校内ガイダンスに参加し、指定校の学校訪問を順次行っていく。	今年度は県内に限った指定校訪問は5月より開始し、19校訪問した。これまでの受験状況を加味し、公募制の応募数増加を目指し、2校訪問した。業者主催の進学説明会は、現在まで8か所に参加した。入学試験応募人数の増加を目指し、2 月末時点で会場形式説明会は5か所に参加した。高校内ガイダンス5校に参加した。今年度からナースセンター主催のwebでの進学説明会は3か所に参加した。また、近隣の高校からの講師派遣依頼を受け、学科科目の1つとして、授業を行った。今後も要請があれば、随時参加していく。今年度も推薦指定校など25校の進路指導教諭及び3年生の教諭を対象とした交流会を計画し、5月26日に当校で開催し、5校が参加された。交流会を通して、看護学校で学ぶ卒業生の学習の現状から、当校で学ぶ良さを感じていただき、入学希望者の増加につなげる。 一般入学試験の応募状況は2.2 倍であり、昨年度より増加している。今後、更に高校生人口が減少し、応募者が減少していくと予測されるため、選抜方法の検討を引き続き行っていく。推薦入試での入学予定者は昨年度と同様、定員の40%程度である。	3
		(144)合格者からの入学率は50%以上である			4
		(145)推薦入試の入学生は定員の40%程度である			4
	4）学生募集に関する分析・評価体制	(146)入学試験委員会が定期的に開催されている	入学試験委員会を年間計画に基づき計画的に実施し、必要事項を審議する。その際の資料として応募者、合格者、入学者などのデータを分析したものを提示していく。推薦指定校については志願者の状況から見直しをおこなう。入学者については学期ごとの運営会議で推薦（指定校制・公募）・一般入試の方法別に成績等の推移を共有し、評価していく。	入学試験委員会は、年間計画に基づき計画的に実施し、必要事項を審議している。その際の資料として志願者、合格者、入学者等のデータを分析し、提示している。また、推薦指定校については志願者の状況から毎年見直しをおこなっている。入学者については学期ごとの運営会議で推薦（指定校制・公募）・一般入試の方法別に成績等の推移を共有し、評価している。	4
		(147)志願者・合格者・入学者などの推移とその評価がなされている			4
8 卒業生の状況	1）卒業生の進路	(148)卒業生の90%以上は看護職を選んでいる	4月中旬より進路面接を行っているが、個人の希望に沿った就職先を選択できるように支援を行う。昨年度は、卒業予定者75名の内、進学者8名、就職者67名であった。就職先の内訳は49名65.3%が国立病院機構であり、卒業生の80%以上が国立病院機構へ就職するという目標は達成されていない。三重県内への就職者は52名69%であった。 早い段階からのアピールや実習が充実したものとなれば就職希望につながると考える。昨年度同様、新型コロナウイルスの影響で病院見学の機会も少なく、イメージできないまま就職先を決定していく状況であるが、今年度も引き続き、病院と学校が連携を図り、就職後の卒業生像とのズレが生じないように努める。 就職先との情報交換については、三重中央医療センターの看護部より各病棟の卒業生の近況を写真入のリーフレットにして頂いており、適宜、掲示して後輩の目に止まるようにしている。また、他施設への就職者は施設訪問の際に卒業生の様子を聞いたり、その際に写真・メッセージを頂いたり、郵送で頂くこともある。また、一部ではあるが当校を訪問し近況を報告してくれる卒業生もいる。就職先病院とも協力し、今後も様子等状況把握に努めていく。	4月初旬より進路面接を行い、個人の希望に沿った就職先を選択できるように支援を行った。今年は卒業予定者69名の内、進学者5名（内1名未定）、就職者64名である。就職先の内訳は、52名（75.3%）が国立病院機構であり、卒業生の80%以上が国立病院機構へ就職するという目標は達成されていない。三重県内への就職者は53名（76.8%）である。今年度も新型コロナウイルスの影響で、病院見学やインターンシップ参加が難しい状況であり、学生の希望を聞き支援した。今後も、早い段階から先を見据えて就職先を考えられるよう相談の機会を作っていく必要があると考える。また、実習が充実したものとなれば就職希望につながると考える。引き続き、病院と学校が連携を図り、就職後の卒業生像とのズレが生じないように努める。 就職先との情報交換については、各施設の看護部より卒業生の近況を写真入りのリーフレットにして頂いたり、後輩へのメッセージとして頂いている。適宜、学生に掲示して目に止まるようにしている。また、施設訪問の際に卒業生の様子を聞いたり、情報交換を行っている。また、一部ではあるが当校を訪問し近況を報告してくれる卒業生もいる。就職先病院とも協力し、今後も状況把握に努めていく。	4
		(149)卒業時点での進路状況が、分類整理されている			4
		(150)統計資料が経年的に整理され、活用されている			4
		(151)卒業生の就職先との情報交換や調査の実施等が出来る体制を整えている			4
		(152)卒業、就業にあたっての進路相談・指導体制が整っている。			4
		(153)卒業状況は入学時状況と比較している（学生数の変動等）			4
		(154)卒業時の学生の看護実践能力を把握している。			4
		(155)期待する卒業生像と、就職先での評価は妥当である。			4
	2）資格取得（国家試験）合格状況	(156)国家試験合格状況は、全国の平均合格率を上回っている	昨年度の当校の看護師国家試験合格率は98.6%であった。今年度は早期より教員による特別講義を実施し、実習中も各領域毎に小テストに取り組み実習とリンクさせ、学習強化を図っていく。また、3年生全員を対象にチューター制をとり、担当教員が継続して担当学生の学習及び精神面での支援を行う。成績下位層の学生に対して支援し100%合格を目指していく。	昨年度の当校の看護師国家試験合格率は97.2%であった。今年度は早期より教員による特別講義を実施し、実習中も各領域毎に小テストに取り組み実習とリンクさせ、学習強化を図っている。また、学内の昼休みに10分間テスト、放課後には30分程度の勉強会を実施した。他にも夏季休業中には成績下位者に対しwebにて勉強会を実施する等、記憶の定着を図っている。チューター制に関しては、今までの不合格者の背景から、今年度も学力に応じ、より支援の必要な学生に指導がいきわたるように、レベル別でチューター生を導入していった。1月のWEB授業期間にもオンライン授業を行い、学力強化を図った。今後も評価し、100%合格を目指して支援していく。	4
		(157)不合格者の背景、特性を分類し、教育活動に活かしている			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
9 社会への貢献	1）地域との連携と社会への啓蒙	(158)看護教育および看護の情報を公開し、広報活動を行っている	昨年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オープンキャンパスは中止とし、進学説明会を実施した。参加者は三重県内に制限したが、同伴者を含み3回合わせて、130名が参加した。短時間での開催であったが、参加者からの満足感は得られたため、今年度も感染対策をとったうえでオープンキャンパスを開催していく。 昨年度は学校祭などの行事は新型コロナウイルスの影響によりいずれも中止となった。今年度は感染状況に応じて開催方法を検討していく。また公開講座に関しても、従来通りの開催は難しいが、幅広い年齢層の対象としたweb上での公開講座や高校やクローバーの会など限局した範囲での公開講座を計画していく。 また三重県内の高等学校での模擬授業や看護師の仕事や学校生活についての説明会は依頼があれば、可能な範囲内で対応する。また、感染拡大状況に合わせて、高等学校とのweb会議の活用も検討する。	教育内容や学校行事の様子などは、適宜ホームページに掲載している。ホームページで学校生活や宿舎生活の動画を配信している、令和3年4月から令和4年2月まででホームページの閲覧回数は6698回であり、学生生活の動画は124件、宿舎生活の動画は214件であった。動画の閲覧回数は一定数あるため、今後学生の意見を取り入れながら詳細な内容に動画をバージョンアップしていく。また東海北陸グループのツイッターを活用し学校行事の様子などを掲載している。 今年度はオープンキャンパスを土日の2回を含む計3回実施した。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、オープンキャンパスは学校説明と学校・宿舎の案内に内容を縮小し実施した。参加者は三重県内に制限し、同伴者を含み1回目7月18日（日）76名、2回目7月28日（水）82名、3回目8月21日（土）58名の参加があり、昨年度の130名より1.66倍増加した。しかし、8月ごろから新型コロナウイルスの感染者が三重県内で急激に増加したこともあり、3回目のキャンセルが多かった。申し込みフォームを整理し、高校訪問の際に案内を配布したり、ホームページで情報公開を行った。感染対策を行い、3密にならないよう1回の参加人数を制限し、1日に複数回実施した。説明と質疑応答、施設案内で50分間の開催であったが、参加者からの満足感は得られた。 webでの進学説明会は、今年度高校が1校と1名からの応募があり、webにて開催した。引き続き応募があれば対応していく。 学校祭は3密を避けた状態で学校内のみのweb配信という形で開催し、学年の学びを全校生徒で共有することができた。次年度も感染状況に応じて、学校祭の開催方法を検討していく。公開講座に関しても、現在まで実施はできていないが、地域の新型コロナウイルスの感染拡大状況を考慮し、地域の要望に合わせ、一定期間ホームページで動画配信するなど、実施可能な方法を検討し実施していく。	4
		(159)学校行事は地域性を考慮して教育計画に位置づけている			4
		(160)地域への働きかけは社会のニーズに応じた内容である			3
	2）近隣関連施設との連携	(161)近隣施設へのボランティア活動に積極的に参加している	昨年度はコロナ禍によりサマーコンサートやウインターコンサートは中止となった。今年度は開催方法を検討したうえで、コロナ禍でも開催できる形で学生自治会を中心に企画・実施していく。今年度も入院患者の年齢層に合わせて、コンサート内容を検討していく。 コロナ禍であるため、生涯教育の場としての学校開放はいまだ難しい現状にある。感染状況をみながら、要請があり可能であれば母体病院や地域などに学校を開放していく。 県内の学校長会や看護師養成所主任等会議への参加により、意見交換や情報交換を行い、参加校の問題解決に協力していく。三重県看護教員継続研修への参加や、学生の県内への就職を働きかけ、近隣施設との連携を図る。	母体病院で実施していたコンサートに関しては、新型コロナウイルス感染拡大のため実施はできなかった。しかし、今年度は病院ロビーに学生が考えたクリスマスの装飾や学生からのメッセージを掲示し、患者様に季節を感じてもらい、気分転換の機会につながった。 6月21日から9月末までは体育館を新型コロナウイルスのワクチン接種会場として提供しており、教員もワクチンの打ち手として参加した。 県内の学校長会や三重県教務主任会議や三重県看護教員継続研修への参加により、意見交換や情報交換を行った。	3
		(162)社会人および近隣施設の生涯教育の場として学校を開放している			3
		(163)近隣関連施設との情報交換および連携システムができている			4
	3）国際的視野	(164)国際的視野を広げるための授業科目を設定している	看護マネジメントの一部として、国際看護についてJICAより講師を依頼し、実施した。今年度も実施予定である。 国際協力機構出版の雑誌やユニセフ出版の世界子ども白書のような雑誌を図書室に保管したり、図書を購入している。 これまで留学についての相談を受けたことは無いが、相談があれば対応する予定である。今後も、卒業生の英文での各種証明書発行依頼があった時には、英文での作成を行っていく。	看護マネジメントの科目のなかの「国際看護」についてJICAに講師を依頼し、実施した。 国際協力機構出版の雑誌やユニセフ出版の世界子ども白書を図書室に保管している。 これまで留学についての相談を受けたことは無いが、相談があれば対応する予定である。また、卒業生が海外留学等を考え英文での各種証明書発行依頼があった時には、英文での作成を行っている。今年度は卒業生で海外でのライセンスの申請のため英文での証明書の対応を行った。引き続き申請があれば対応していく。	4
		(165)国際的視野を広げるための学習ができる環境を整えている			4
		(166)留学や海外において看護職に就くことを等を希望する学生に対応できる体制を整えている			4

評価項目			2021年度目標及び課題	最終評価 （R4.2）	R4 評価点
大項目	中項目	評価対象項目（質問項目）			
10 研究・研修活動	1）研究・研修活動の財政面の整備	(167)研究費は研究計画を立案し、助成金の申請をしている	教員は年度当初に立案した研究計画書をもとに、助成金を使用し研究活動や、自己の課題に取り組めた。研究室は、有線のLANケーブルがあり、インターネット環境は整っており、研究用に使用できるパソコンをあり研究に必要な環境は整備されているが、研究室は使用されていない状況である。研究時間については、月に半日、計画的に活用していく。 教員は、研究に関する予算は東海北陸グループからの研究助成金があり計画的に活用している。	教員は年度当初に立案した研究計画書をもとに、助成金を申請しそれを使用して研究活動や、自己の課題に取り組めた。リモートで学会参加や研修などにも計画的に参加した。東海北陸グループ教育研究研修会の授業研究グループに参加している。 教員の研究活動は、月に半日研究時間として保障されている。全教員が月に半日の研究活動を計画的に行うよう努力している。今後も業務調整を行いながら、研究活動を行っていく。研究室には研究用に使用できるパソコンがあり研究に必要な環境は整備されている。教員の研究時間やリモートでの会議などで研究室を使用している。	4
		(168)研究に必要な設備・機器を計画的に整備している			4
		(169)研究・研修への年間予算計画が設定されている			4
	2）教員の研究活動	(170)教員の研究活動を保障（時間的・財政的・環境的）している。	研究の発表は、 昨年度は国立病院総合医学会で2名の教員が研究、医療マネジメント学会で1題投稿した。4月に全教員が研究計画書を作成しているため、研究発表に向けてに各教員が積極的に研究に取り組んでいく。教育主事が研究のサポートにあたり、研究を支援していく。 学会や研修や専門領域や教育、国家試験対策など自分の興味関心のある研修に積極的に参加する。また、学校内での授業研究を行っており全教員が授業研究を実施し、自己研鑽に努めている。教員は講義や実習では、臨床ナースと連携や交流を図っている。現在新人看護師を対象に学生時代に受けた教育についての研究に取り組んでおり、昨年度新人看護師へのインタビューを実施している。研究結果を臨床にもフィードバックしながら看護研究に取り組んでいく。	各教員が計画的に研究発表、学会、研修に参加した。研究時間については、月に半日、計画的に活用している。また、東海北陸グループ教育研究研修会で授業研究を行った。3月17日にリモートにて各研修グループの発表予定である。 教員会議の場において定期的に研究の報告を行い、他の教員より意見をもらい研究に反映している。今年度も国立病院総合医学会がweb開催となり、2名の教員が研究を投稿している。7月の医療マネジメント学会もweb開催となり、1題投稿した。次年度の発表にむけて準備している教員もいる。 教員は国立病院看護教育学会に全員所属している。教員は、国立病院看護研究学会や三重看護研究学会に所属している。 学校内の授業研究は全教員が実施した。教員会議で授業実施前と後で、授業に関して意見交換を行い、自己研鑽に努めている。教員は講義や実習では、臨床ナースと連携や交流を図っている。現在新人看護師を対象に学生時代に受けた教育についての研究に取り組んでおり、研究結果をまとめ臨床にもフィードバックしながら看護研究に取り組んでいる。 各教員の研究には教育主事がサポートにあたり、研究を支援している。又、教員間で共同研究を行っている教員もおり、教員会議で中間報告を行い意見交換している。研究は教育実践で疑問に感じるところを探求し、取り組んでいる。今後は専門領域を意識した研究にも取り組んでいく。	4
		(171)教員の研究活動を助言・検討する体制を整えている			4
		(172)研究に価値をおき、研究活動を教員相互で支援し合う文化的素地がある			4
		(173)教員は専門領域の研究活動に取り組んでいる			3
		(174)教員の半数以上は年1回以上の研究発表を行っている			4
		(175)教員は看護・教育関係の学会に所属している			4
		(176)教員は臨床ナースと連携や交流を図り臨床看護研究に取り組んでいる			3
	3）研究成果の発表	(177)教員の半数以上は研究成果を過去2年以内に公表している（学会、投稿）	教員の半数以上は学会等で研究成果を公表するようにしていく。研究業績は母体病院の年報に掲載しているが、学校独自の年報や紀要は発行していない。	今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学会がweb開催に変更となり、3名の教員が研究を投稿した。研究業績は母体病院の年報に掲載しているが、学校独自の年報や紀要は発行していない。	4
		(178)学校は研究成果を年報、紀要や論文集などで発刊している			4
	4）研修活動への積極的参加と教員の活動	(179)教員は計画的・自主的に研修に参加している	教員は、東海北陸グループや三重県看護協会主催の研修会に参加している。研修については計画的・主体的に参加している。4月には年間計画を出し、希望する研修に行くための旅費や、研究に必要な備品、休暇などを申請して研修を受けている。必要経費の支払いについては事務所へ書類を提出していく。教員同士で研修で不在時の業務のフォロー体制も整えている。 対外講師活動としては、高校生対象の進路ガイダンスでの模擬授業を行う予定である。また、三重県実習指導者講習会、東海北陸グループ主催の実習指導者講習会、東名古屋病院の院内研修（実習指導者研修会）などにおいて、講師及び演習の助言者を勤める予定である。	教員は、東海北陸グループや三重県看護協会主催の研修会、管理研修Ⅰに参加している。3月17日に全教員が東海北陸支部教育研修会に参加する予定である。 研究助成金を使って研修に参加できるように資金体制や、年休は整っている。また、教員が研修で不在になった時は業務のフォロー体制も整っている。また、「看護形態機能学」のオンライン研修に参加できる環境を整え、新科目の教材研究につなげている。 対外講師活動としては、高校生対象の進路ガイダンスでの模擬授業や高校の看護探求コースの授業や東名古屋病院の院内研修（実習指導者研修会）に講師として参加した。また、三重県実習指導者講習会、東海北陸グループ主催の実習指導者講習会において、講師及び演習の助言者を勤めた。	4
		(180)教員は、専門領域の臨地実習、研修を実施している			3
		(181)教員が研修に参加できるようシステム作りをしている			4
		(182)教員は対外的に講師としての役割を果たし、活動している			4
11 学校評価	1）自己点検・評価体制	(183)自己点検・評価のシステムが作られている	業務分担によって結成されたワーキンググループを中心に、今年度も4月に各グループで 昨年度の課題や第三者評価をもとに、目標及び課題を明確にしている。今後、定期的に話し合い、中間評価および最終評価を行っていき、目標及び課題達成に向けて努力していく。 2019年度より、学校関係者評価委員会の規定を作成し、学校関係者評価委員会による評価を開始した。学校関係者評価をもとに改善すべき点を明確にして取り組んでいく。 昨年度の自己評価・自己点検の結果、学校関係者評価委員会の結果はホームページ上に掲載しているため、今年度末には今年度分を掲載できるように準備していく。	業務分担によって結成されたワーキンググループを中心に、今年度も4月に各グループで昨年度の課題や学校関係者評価委員会をもとに、目標及び課題を明確にしている。 2019年度より、学校関係者評価委員会の規定を作成し、学校関係者評価委員会による評価を開始した。学校関係者評価をもとに改善すべき点を明確にして引き続き、取り組んでいく。 昨年度の自己評価・自己点検の結果、学校関係者評価委員会の結果はホームページ上に掲載しているため、今年度末には今年度分を掲載できるように準備していく。外部評価者の評価をもとに改善すべき点を明確にして取り組んでいく。	4
		(184)自己点検・評価に必要な基礎データ等の整備がなされている			4
		(185)自己点検・評価を定期的に実施している			4
		(186)自己点検・評価の結果を公表している			4
		(187)評価を次年度に活かし改善している			4
		(188)外部評価者の規準が明確である。			4
		(189)自己点検・自己評価の活動は教職員に明確に理解されている。			4